

令和8年度 施策評価表(令和7年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び
施策番号： 01 - 01

1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	01	地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進
主担当局		地域協働局			

2 目標指標

指 標 名		基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値					
	方向				R3	R4	R5	R6	R7	
A	「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合	↑	7.1	%	13.1	7.1	13.3	12.8	13.8	12.3
B	「地域の活動に参加している」と答えた市民の割合	↑	15.6	%	30.0	15.6	14.4	14.4	16.6	15.4
C	「講座などに参加して学んだことを地域や社会のために生かしたい」と考えている参加者の割合	↑	78.1	%	90.0	78.1	81.2	82.0	87.6	90.0
D	学校の教育活動にかかわりを持っている市民の割合	↑	21.9	%	30.0	21.9	23.2	26.2	23.6	23.9
E	市民1人あたりの貸出冊数	↑	3.15	冊	5.87	3.2	3.0	3.1	3.0	3.0

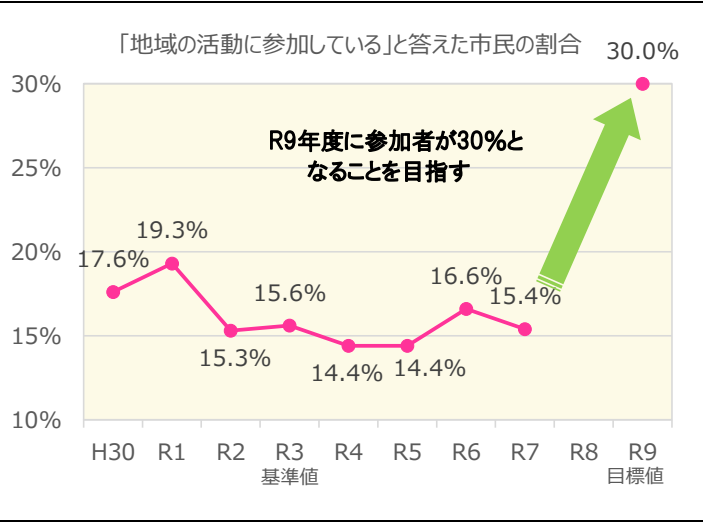
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和7年度実施内容を記載)	
成 果	課 題
【多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】(目標指標A・B) (目的)多様な主体同士が情報共有や相互理解を深めるような場づくりを進め、地域の課題解決や魅力向上の取組が地域発意で行える地域社会づくりを目指す。 ①《地域発意の取組が生まれる環境づくり》地域課主催のプラットフォームを継続し、ユース交流センターやNP0と連携した青少年の居場所づくりの取組や、多文化交流イベントの定期的な開催など、地域課題に応じた活動へのきっかけづくりにつなげた。また、人口分布や属性データを活用しながら、地域特性に合わせた施策立案に取り組んだ。 ②《地域のつながり強化に向けた取組》地域活動の基盤となる地縁型の活動者の減少に歯止めをかけるため、市社協と連携し、新規マンション建設の際に福祉協会(単組)への加入を促す仕組みを構築するなど、単組への加入促進に向けて取り組んだ。(29件中3件が単組加入を検討) ③《地域振興体制の再構築の振り返りの実施》「尼崎市自治のまちづくり条例」の制定から10年が経過する中、「自治のまちづくりに向けた地域振興体制の再構築(取組方針)」の振り返りを行うとともに、地域担当職員を中心に共有した。	
【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】(目標指標A・B・C) (目的)学びたい思い、取り組んでみたい思いを支援し、ひと咲きプラザや生涯学習プラザをはじめ、まちのいたる所で学びや活動が創出されることを目指していく。 ④《地域活動への参加につながる環境づくり》市ホームページで地域活動を一元的に情報発信する仕組みを構築し、市民活動団体の依頼に基づく情報発信を行った。また、みんなの尼崎大学事業では、市民に身近なテーマでの実施や、きめ細かい情報発信などにより、新規参加者が約4割増えた。 ⑤《大庄西中学校跡地の整備・活用に向けた取組》新南の口公園・コミュニティスペースの令和8年度供用開始に向け、意見交換会や社会実験に関わったサポーターを中心に「コア会議」(4回)を開催し、規約や役割分担を協議して運営団体の組織化を推進した。また、サポーター会議(6回)では、現公園の「タコ公園さよなら感謝祭」企画や活動理念・次年度計画・利用ルール策定を行い、協働意識を醸成した。	
【地域と学校の連携・協働の推進】(目標指標D) (目的)地域の方々の経験や学習の成果を活かすとともに、学校を核とした活動を通じて地域のつながり、教育力の向上を図る。 ⑥《学校を核とした地域活動の推進》新たに市立学校7校においてコーディネーターを配置した。また、文部科学省CSマイスターを講師に招へいし、学校管理職、学校運営協議会会長、地域学校協働活動推進員を対象に、中・高等学校等の取組事例をもとにしたテーマ型のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を中心とした研修会を実施した。加えて各地域課を訪問し、コミュニティ・スクールに関する情報提供を行うとともに、今後の連携について話合った。	
【図書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書サービス網の充実】(目標指標E) (目的)資料や情報の提供をはじめとした「知の拠点」として、市民が生涯にわたり学習と交流を行える機会を創出し、豊かな暮らしを実現するための図書サービスの充実を図る。 ⑦《図書サービス網の更なる充実》親子を対象とした読み聞かせや児童向け行事をボランティアと協働で実施したほか、成人層を対象とした図書関連講座を開催し、幅広い世代に向けた読書活動の推進及び図書館利用の促進を図った。また、関係機関と連携した事業の周知や参加促進に取り組むとともに、新たにInstagramを導入するなど情報発信の充実を図った。さらに、新図書館整備に係る基本計画の策定に向けた検討を行い、施設機能や整備の考え方について関係部局との調整を進めた。	

3 主要事業一覧

令和8年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	
令和7年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	
令和6年度 主要事業名	
1	大庄西中学校跡地の整備(大庄西中学校跡地整備事業、公園整備事業)
2	生涯学習プラザ利用者の新たな出会いの創出(各地区生涯学習プラザ指定管理者管理運営事業)
3	読書を通じたまちじゅう学び事業(図書館行事事業)
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・地域振興センターとして、地域担当職員が地域により積極的に出向き、地域の課題を丁寧に把握する中で、関係部局と迅速に情報共有・連携し、地域とともに解決に取り組む。また、身近な活動拠点などの地域資源を活かした取組が進むよう支援する。加えて、住民の地域活動への参加促進に向け、デジタルツールの活用可能性について検討を行う。
・新図書館については、基本計画に基づき、関係部局と連携しながら事業者選定・整備を進める。あわせて、身近な場所での図書利用の促進に向けて、各地域の配本所に親しみが持てるよう愛称の設定や看板の掲示など、配本所の認知度向上と気軽に利用できる環境づくりに向けた取組を推進する。

主要事業の提案につながる項目

令和8年度 施策評価表(令和7年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び
施策番号： 01 - 02

1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	02	まちの魅力を高める文化芸術活動の推進
担当当局		地域協働局			

2 目標指標

指 標 名		方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
						R3	R4	R5	R6	R7
A	尼崎市文化振興財団及び本市が実施した文化芸術事業への参加者数	↑	133,807	人	—	133,807	193,309	266,283	235,140	216,995
B	尼崎市総合文化センター(大・中・ミニホール及び美術ホール)稼働率	↑	55.7	%	—	55.7	53.7	58.8	61.0	50.9
C	若者支援を目的とした文化芸術事業への参加者数	↑	4,974	人	5,250	4,974	10,643	3,045	3,238	2,840
D	文化芸術のアウトリーチ事業の参加者数(※)	↑	1,286	人	2,800	1,286	2,225	2,213	1,742	1,871
E	文化に触れることで「地域の人との交流や社会参加が盛んになる」と感じている市民の割合	↑	21.1 (R4)	%	26.1	—	21.1	24.6	24.9	22.5

※どれだけの市民が文化・芸術に触れたかを測るため、実施回数から参加者数に変更(旧指標：文化芸術のアウトリーチ事業の回数)

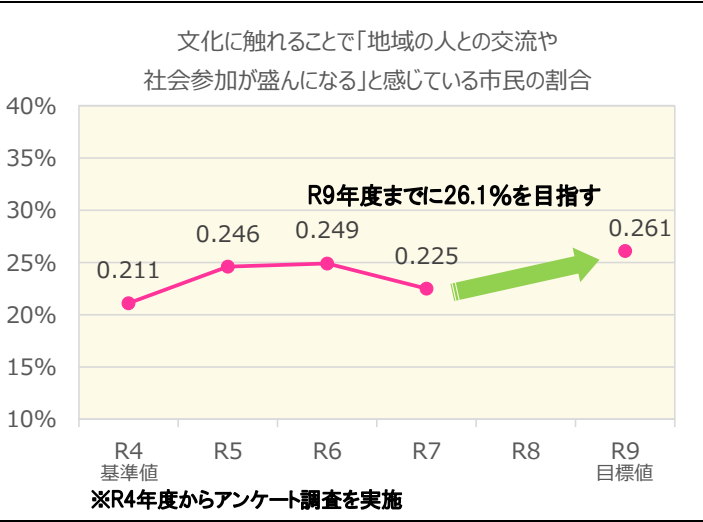
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和7年度実施内容を記載)	
成 果	課 題
【文化振興の基盤づくり】 (目標指標A・B・C) (目的)文化施策の指針である「尼崎市文化ビジョン」に基づき、尼崎市総合文化センターを文化振興の中核とし、その運営を担う(公財)尼崎市文化振興財団(財団)と連携して文化芸術の学びや活動を推進する。 ①《総合文化センター耐震化事業》尼崎市総合文化センター開館50周年記念事業の機会等も活用しながら、耐震化事業及び長期休館の周知を広範に行ったが、入札参加事業者の辞退により入札中止となった。 ②《文化振興財団の体制強化》財団が作成した事業評価シートを用いて、事業実施後に市と財団とで事業の成果や課題の振り返りを行った。また、令和8年4月からの総合文化センター(文化棟・ホール棟)の休館に向けて、身近な場所での文化・芸術体験の充実を図る市の施策方針に沿った事業を財団が企画立案するとともに、施設の休館に伴う財団の収支構造や人員体制の変化に対して、市としてのガバナンスを強化し必要かつ適正な補助金額の精査を行った。	
【夢へのチャレンジを応援する】 (目的)若い人の夢を後押しし、飛躍のきっかけとなる機会を提供することや、年齢を問わず新しいことにチャレンジする人を応援することで、本市が夢へのチャレンジを応援するまちであることを発信するとともに、その活動を広げていく。 ③《各種表彰等による応援》文化未来奨励賞について、発表の費用や準備期間の負担から舞台芸術等の応募が少ない課題を解消するため、発表会に代えてワークショップの開催も可能とするなど応募条件を見直し、より幅広い分野から応募しやすい環境を整えた。新人お笑い尼崎大賞は、人気お笑い芸人を数々生んできた尼崎で長年実施されてきたことや、出場者のレベルが高いことが尼崎市文化ビジョン推進懇話会において評価された(応募者数139人、入場者数130人)。	①大規模な改修事業の担い手不足という社会情勢の中で、市民の文化体験・活動の拠点である施設の休館が更に長引く懸念がある。 ②施設の休館に伴い財団の事業拠点が縮小され、収益力が大きく低下する中で、安定的に文化事業を行っていくための基盤について、中長期的な見通しを立てていく必要がある。
【歴史・文化を受け継ぎ、育てる】 (目標指標A) (目的)過去から受け継がれてきた伝統芸能や祭り、本市ゆかりの人物といった様々な歴史・文化について、学び・楽しみながら、それらが守り伝えられ、まちづくりに活かされていくよう、まちの誇りとして育んでいく。 ④《様々な歴史・文化を学び・楽しむ機会の提供》白髪一雄記念室では、1970年大阪万博との関わりに着目した展示を行うとともに、阪神間地域が連携して展覧会の情報を発信することで、大阪・関西万博に興味を持つ人々の来場につなげた。また、白髪一雄の妻、富士子の人生と作品に光を当てた展示は、他館の女性の前衛美術家を取り上げた展覧会と同時期に開催したことにより、新たな客層を呼び込むことができた。そのほか、2年振りに尼崎城の野外特設舞台で開催した「尼崎新能」や、昭和52年から開催している桂米朝一門による尼崎落語勉強会など、様々な事業を実施した。	④施設の休館により、白髪一雄記念室での作品展示に替わり、作品のみならず様々な資料を整理し、広く市民に一般公開する準備を進める必要がある。
【学び・楽しみ・交流する市民を支える】 (目標指標A・D) (目的)市民が文化・芸術に触れる機会を増やし、文化・芸術を創作・発表できる場づくりを行うことで、学び・楽しみ・交流する市民を支えている。 ⑤《総合文化センター開館50周年記念事業》記念イベント「アルカイックフェスティバル」では、総合文化センター全館及び隣接公園を活用して、ミュージカル・コンサート・絵本ライブ・展示・音楽ステージなどを開催し(参加者4,335人)、総合文化センターでの体験・活動意欲を醸成することができた。同時期に開催の美術展「とびだせ！長谷川義史展」も8,248人と多数の来場があった。また、休館前イベントでは、アルカイックホールゆかりのアーティスト等による「未来へ響け、つながる音コンサート」や総合文化センターが歩んできた50年の歴史を振り返る「歴史をたどる展覧会」を開催した。 ⑥《アウトリーチ事業の展開》音楽・美術・落語のアウトリーチ事業を生涯学習プラザ等で開催した中で、多様な市民が安心して参加できる社会包摂型のコンサートを2回開催し、子どもから高齢者までの幅広い層に文化・芸術に触れる機会を提供できた。 ⑦《文化・芸術を楽しむ場づくり》アトスペースA-LABでは、ワークショップ参加者が自らの作品を展示に加えることができる参加型展覧会「SUMMER FACTORY」を開催し、子どもたちに文化・芸術を鑑賞・体験する機会を提供した(来場者数582人、満足度98%)。	⑤施設の休館に伴い大ホール・美術ホールが使用できないため、中ホール等を活用して市民の文化・芸術体験を提供するとともに、文化芸術団体等との良好な関係性を維持しながら、引き続き活動支援を行う必要がある。 ⑥関係部局や地域団体など多様な主体と連携しながら試行した成果を活かし、より多くの機会を市民に提供していく必要がある。 ⑦施設の休館に伴い美術ホールでの美術展が開催できないため、A-LABにおいて市民が親しみやすい展覧会にも取り組む必要がある。

3 主要事業一覧

令和8年度 主要事業名	
1	身近な場所での文化・芸術体験の充実(尼崎市文化振興財団補助金)
2	
3	
4	
5	
令和7年度 主要事業名	
1	尼崎市総合文化センター開館50周年記念事業(尼崎市文化振興財団補助金)
2	
3	
4	
5	
令和6年度 主要事業名	
1	桂米朝顕彰事業(尼崎市文化振興財団補助金)
2	
3	
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・総合文化センター耐震化事業については、大規模改修事業の担い手不足等により事業継続が困難であることから、現行の耐震化計画を見直し、新たな整備方針を検討していく。
・文化振興財団の財務基盤や組織基盤の強化を行う中、施設の休館が長期化することを踏まえ、市の施策方針や市民ニーズに沿った文化芸術体験を計画的に企画・運営していく。

令和8年度 施策評価表(令和7年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び
施策番号： 01 - 03

1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	03	歴史遺産の継承と学びの充実
主担当局		教育委員会			

2 目標指標

指 標 名		方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
						R3	R4	R5	R6	R7
A	歴史や文化財等に関するボランティア活動参加延べ人数	↑	881	人	1,762	881	1,773	2,017	2,200	2,529
B	歴史博物館への来館者数	↑	45,171	人	50,000	45,171	39,351	43,441	48,640	46,277
C	歴史博物館・田能資料館主催事業の参加者数	↑	1,023	人	2,046	1,023	1,975	1,911	1,810	1,769
D	あまがさきアーカイブズ(地域研究史料室)相談利用(レファレンス)人数	↑	2,293	人	2,345	2,293	2,229	2,223	1,894	1,857
E	学校教育と連携した事業の実施回数	↑	45	回	90	45	59	78	101	99

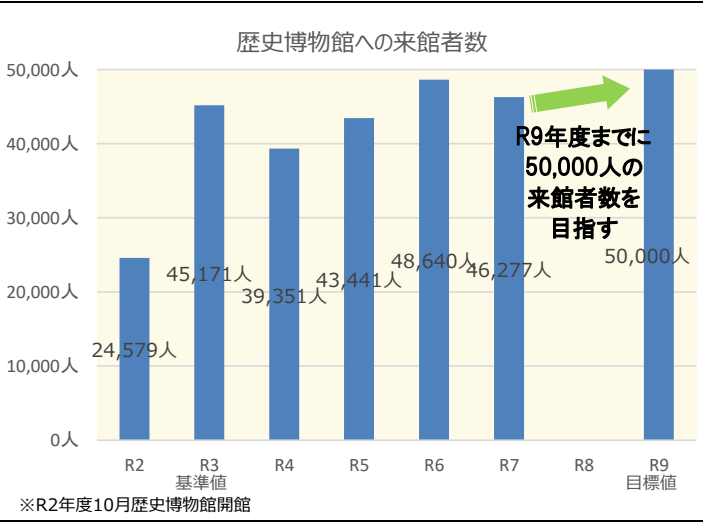
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和7年度実施内容を記載)	
成 果	課 題
【歴史博物館の魅力向上と情報発信】(目標指標B・D) (目的)歴史博物館において尼崎の歴史資料や文化財を積極的に展示・公開し、市民や他都市からの来訪者の尼崎の歴史・文化財に対する関心を高めるとともに、シビックプライドの醸成や観光地域づくりに貢献する。また、市民ボランティアの養成と参画促進に取り組むとともに市民グループとの協働も図り、市民と共に歩む博物館を創出していく。 ①<<常設展示や特別展、企画展の実施>> 本館企画展では、大阪・関西万博開催を記念し、歴史博物館所蔵博覧会資料コレクションを展示した。この企画展では尼崎信用金庫と連携し、前期を歴史博物館、後期を尼信会館で実施した。また、兵庫県立人と自然の博物館とも連携し”モノ”をアップサイクルし新たな価値を付与した「価値の見直し展」巡回展を歴史博物館で実施した。特別展では、安土桃山時代から江戸時代初期の初代尼崎藩主となった建部氏の業績を中心に激動の尼崎の歴史を紹介した。この他、展示解説や講座を実施し、SNSを利用した情報発信については週1回程度で更新を行い、より早く届けられるよう積極的に取り組んだ。次に田能資料館企画展では、発掘されたイヌの骨からヒトとの関わりを考え、弥生時代の認識を深める「ワンちゃんたちのプロフィール」等を実施した。 ②<<資料のデジタル化の推進とデジタルアーカイブの充実>> 資料のデジタル化として、尼崎紡績関連資料、長洲天満宮絵馬、その他歴史博物館所蔵写真約1万4千点について実施した。そのうち、所有するデジタルコンテンツの一つであるデジタルアーカイブについては、尼崎城関連絵図等を追加し、720件の資料を公開している。さらに、文書群3件583点の概要、目録をホームページで公開した。	①地域に伝わる歴史文化遺産である尼崎にゆかりの文化財や歴史資料を市民にわかりやすく、積極的に展示する必要がある。また、より多くの来館者を獲得し、リピーターを増やしていくため、目新しく時宜を得た企画・事業を展開する必要がある。さらに博物館や展示に係るサイン・ディスプレイなどの展示備品の充実を図る必要があるが輸送費の高騰、物価上昇により限られた予算内でしか開催できない。併せて博物館業務の安定的な継続に資する専門職の人材確保・育成を行う必要がある。 ②歴史博物館デジタルアーカイブを含めた各種デジタルコンテンツについて、利用者の利便性と満足度を向上させるためには、まず博物館所蔵資料のデータベース強化をできる限り進めていくことが求められる。これと同時に、今後も蓄積し続けるデータベースに対して、利用者が求める情報に迅速かつ正確にアクセスできる環境整備が必要である。
【文化財保存活用地域計画の推進】 (目的)市内に広がる多種多様な文化財を適切に把握し、長期的な視点に基づき市民と共に計画的に保存・活用していくことを目的として作成した「尼崎市文化財保存活用地域計画」に基づき、取組を推進する。 ③<<文化財保存活用地域計画の策定>> パブリックコメント、市民アンケート調査、文化財保護審議会・地域計画協議会の意見聴取等を行い、尼崎市文化財保存活用地域計画を作成した。また令和7年12月19日に開催された国の文化審議会への諮問、答申を経て、国の認定を受けた。計画を広く市民に周知するためのシンポジウムを令和8年3月21日に実施した。 ④<<歴史文化の保存・活用>> 計画にある目指す姿、「あまがさきの歴史文化をみんなで知って、守って、生かし、広げよう」に基づき、本市に現存する最古の洋風建築物である旧尼崎紡績本社事務所の保存に向けた啓発活動等の実施及び国の登録有形文化財への登録を申請した。また、更なる保存・活用に向けた機運醸成を図るため、各種イベントの開催、啓発活動、関連グッズ販売、文化財保存活用基金への寄付協力の呼びかけを行った。さらに市民等の憩いの場としての活用に加え、建物への関心につなげるため、敷地の不陸を修繕し、コスモスの栽培を行った。	③計画に記載された、文化財保護行政の方向性を示すマスタープランに基づき、地域と連携したアクションプランを着実に実施していく必要がある。併せて、地域の特色ある文化財をまちづくり等に生かす取組を推進し、地域総がかりで歴史文化遺産を総合的・一体的に保存・活用を推し進める必要がある。 ④旧尼崎紡績本社事務所の取組については、文化財の価値を実感してもらうため、魅力向上・情報発信などの保存・活用に向けた機運醸成の取組を継続する必要がある。また、旧尼崎紡績本社事務所保存・活用に関する指針に基づき、今後の保存・活用方法の方向性を検討する必要がある。敷地については市民等の憩いの場となるように更なる整備を進める。建物については今後の保存・活用に向けた基礎データの収集が必要である。
【地域の歴史を通じた学習の支援の継続】(目標指標A・C・E) (目的)市民や子どもたちが尼崎の歴史・文化財に触れる学習機会や場の充実を図り、身近な地域の歴史・文化財に対する関心を高める。 ⑤<<歴史・文化財に触れる学習機会や場の充実>> 令和6年度から学校教育との連携・実施する尼崎歴史探索(AMATAN)事業については、来館する各学年の学習内容に応じたワークシートを歴史博物館が作成し、児童が常設展示を観覧する際に活用してもらうほか、学校のニーズや滞在時間に応じ、映像の視聴や実物資料に触れる体験等を通じ、歴史博物館ならではの学習機会を創出できた。また、田能資料館では、弥生時代の人の生活の一端がわかる体験学習等を実施した。同館については大規模改修工事に向け、耐震補強及び延命化工事の設計委託を行った。	⑤学校では学べない、歴史博物館ならではの歴史体験学習メニューの拡充を検討し、児童が尼崎市の歴史について更に興味関心を持ち、再び来館してもらえるよう学習内容の充実を図る必要がある。また、田能資料館では、新たな来館者の確保に向けた企画展・体験学習等の創意工夫が必要である。

3 主要事業一覧

令和8年度 主要事業名	
1	旧尼崎紡績本社事務所の敷地整備の実施(文化財保護啓発事業)
2	
3	
4	
5	
令和7年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	
令和6年度 主要事業名	
1	旧尼崎紡績本社事務所の敷地整備の実施(文化財保護啓発事業)
2	
3	
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・歴史博物館の企画展・特別展について、専門職の知見を活かしつつ、外部有識者や市民等の視点も取り入れた企画立案の仕組みの検討を行うとともに、他の博物館施設や旧尼崎藩ゆかりの地域等との連携によるストーリー性のある企画展開を行うなど、展示内容の幅と関わりしろを一層広げる取組を進めていく。 ・国登録有形文化財に登録された旧尼崎紡績本社事務所について、敷地を市民の憩いの場となるよう整備を進めるとともに、建物の文化財価値を引き続き周知する。また、構造基礎調査の結果を踏まえ、今後の保存・活用方針の具体化に向けた検討を着実に進めていく。 ・あわせて、城内地区周辺における公有財産の今後の活用方向性も見据えながら、歴史博物館が所蔵する歴史的公文書や埋蔵文化財等の保管環境についても整理を図る。

主要事業の提案につながる項目
【歴史博物館の魅力向上と情報発信】 ①市民に尼崎の歴史について興味をもってもらい、再来館する機会を増やすため、時節に即した尼崎のシビックプライド醸成に資する企画展・特別展の拡充を行う。 ②レファレンス(利用者向け調査相談サービス)のAI化の検討を行う。

令和8年度 施策評価表(令和7年度決算評価)

施策名：地域コミュニティ・学び
施策番号： 01 - 04

1 基本情報

施策名	01	地域コミュニティ・学び	展開方向	04	スポーツに親しむ機会の充実
主担当局		教育委員会			

2 目標指標

指 標 名		方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
						R3	R4	R5	R6	R7
A	健康を意識した運動やスポーツを行っている市民の割合	↑	45.0	%	49.0	45.0	45.8	45.4	46.0	42.4
B	生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数	↑	5,202	人	11,000	5,202	6,614	7,103	7,280	5,978
C	学校開放利用者数	↑	537,279	人	690,000	537,279	687,560	701,632	698,117	730,721
D	地区体育館等利用者数	↑	345,060	人	364,000	345,060	335,781	371,598	361,806	395,303
E	誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者数	↑	31,928	人	69,000	31,928	47,240	50,851	62,450	59,752

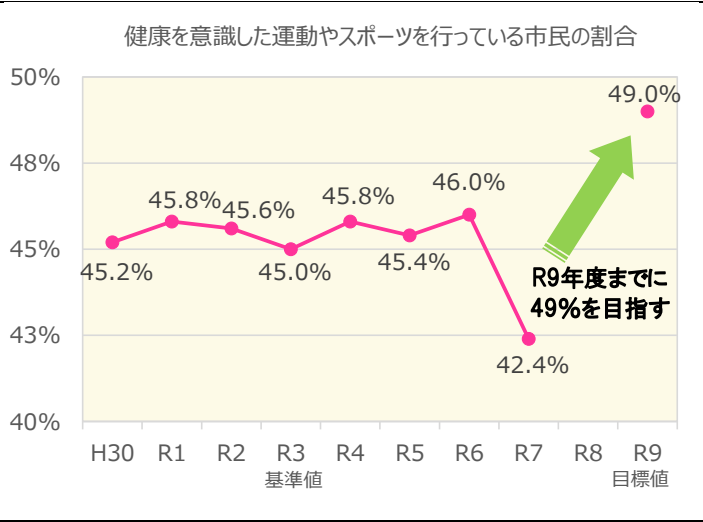
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和7年度実施内容を記載)	
成 果	課 題
【子育て・働く世代、高齢者、障害者スポーツの推進】(目標指標A・B) (目的)市民が気軽にスポーツやレクリエーション活動に参加できる機会と場の提供などにより、市民スポーツの振興や健康の増進、コミュニティの形成を促進するとともに、スポーツを行っている市民の割合の向上を図る。 ①《幅広い世代を対象としたスポーツの推進》 あまがさきリレーマラソンにおいて、例年行っている10.2kmリレー、5.1kmリレー(ファミリーリレー)に加え、1.7kmリレー(親子ペアラン)を新たに設けたことで未就学児が参加できる機会の提供を行った。 ②《障害者スポーツの促進》 車椅子バスケの体験会をスポーツフェスティバルで行い、ホームページで障害者スポーツに関するスポーツ推進委員の活動の情報発信を行った。 ③《地域スポーツ団体と共に取り組むスポーツの推進》 各種スポーツ団体の事務局機能を担う中で、モルック体験教室など、団体事業の支援や団体間の連携の創出を図り、活発な活動を促した。 ④《生涯スポーツの促進》 市民の永年のスポーツ活動を対象とした「生涯スポーツ賞」の選考のほか、指導的立場で本市スポーツ振興に貢献した市民や、国際大会等で優秀な成績を収めた市民に「体育功労者賞」「スポーツ特別賞・スポーツ賞」を授与した。	①高齢者の参加者数が増加している一方で、子育て・働く世代の参加者数が伸び悩んでおり、引き続き親子スポーツ教室の開催を実施するなど、各スポーツ団体や学校等と連携し実施していくとともに、広報活動を強化する。 ②地域で活動している障害者・高齢者支援団体から、地域で日常的に参加できるスポーツの場が少ないとの意見があったことから、既存の活動等との連携とともに新たな活動への支援を検討する必要がある。 ③高齢化に伴う担い手不足の中、活発な活動が継続できるよう、団体の状況に応じた支援が必要である。 ④新たに制定した「生涯スポーツ賞」を広く市民に周知する必要がある。
【多様なスポーツ活動及び文化・芸術活動に関わることができる環境の確保】 (目的)地域クラブ活動を推進することで、子どもたちの多様な学びの機会を持続的に確保する。 ⑤《地域クラブ活動の推進》 モデル校3校に設置した「アマカツクラブ」(13クラブ)の運営及び「認定地域クラブ」の増に組んだ(R8.3.31現在:53クラブ)。また、令和8年1月、生涯学習プラザ等において保護者等説明会を実施し、本市の取組内容を説明するとともに、生徒や保護者の不安の解消に努めた(7か所計877人参加)。 ⑥《学校開放の取組》 学校開放では、698,117人の利用があり、おおむね横ばいの利用状況であった。その他、地域クラブが17時から19時まで利用することになるため、学校開放利用団体に一定の利用制限が生じる旨の通知を行った。	⑤地域クラブ数の拡充にあたっては、指導者の確保や、活動場所の整備や使用ルール等環境整備が必要である。あわせて、取組状況の周知・広報、会費の在り方及び困窮家庭等への支援の検討など、生徒と保護者が安心して地域クラブに参加できる環境づくりが必要である。 ⑥地域クラブ活動の取組推進にあたり、開放時間、施設維持管理、利用申請方法等、学校施設の使用や管理の在り方を整理する必要がある。また、今後、体育館空調が整備されるため、体育館利用の有料化の検討が必要である。
【健康ふれあい体育館等を中心としたスポーツに触れる機会の確保】(目標指標C・D) (目的)健康ふれあい体育館等を通じて、市民の健康づくりや地域コミュニティづくりの促進を図る。 ⑦《健康ふれあい体育館・社会体育施設を拠点とする健康づくりの推進》 大庄健康ふれあい体育館新築工事の実設計を行った。また、園田体育館の長寿化改修工事の基本設計を行った。 ⑧《本市とゆかりのあるスポーツチームと共に取り組むスポーツの推進》 引き続きクボタスピアーズと連携し、バレーボール教室(36人)、交流試合(28人)、無料観戦デー(361人)を開催した。また、SEKISUIチャレンジャーズとは「尼崎ポウル」やXリーグ公式戦を共催したほか、前年度に引き続き武庫の里小学校でフラッグフットボール教室を地域事業者とも連携し実施した。	⑦大庄健康ふれあい体育館の整備に向けた取組を進めるとともに、長寿化改修工事予定の園田体育館については4か月間の休館を伴う予定であるため、利用者への事前周知等を徹底し、供用再開後には再び利用されるような取組が必要である。 ⑧プロスポーツチームを市民に身近に感じてもらうなど、シビッククラブライズの醸成を促すような、地域密着型の取組の強化が引き続き必要である。
【各種スポーツ大会を契機としたスポーツの推進】(目標指標E) (目的)各種スポーツ大会を契機として、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高め、本市のスポーツの推進と競技力の向上を図る。 ⑨《全国大会等の誘致によるスポーツの機運醸成》 2025-26 大同生命SV.LEAGUE WOMEN「大阪マーヴェラス」による尼崎市民向け無料招待を行い、観戦をきっかけとして、スポーツへの関心や参加意欲を高める取組を行った。 ⑩《ワールドマスターズゲームズの実施に向けた取組》 ワールドマスターズゲームズ2027関西の水球が令和9年5月に尼崎スポーツの森で開催することから、実行委員会・専門部会を設立し、各種計画等の調整事務を進めた。	⑨誘致大会8大会が開催され、1大会あたりの観戦者数が減少していることから、市民の関心が高い大会の誘致に努めるほか、SNSなどを活用した情報・魅力発信を行うなど、より多くの人がトップレベルのスポーツに触れる機会を創出する必要がある。 ⑩活気のある大会とするため、積極的な周知に努めるとともに、イベントの企画等関係機関と連携しながら取り組む必要がある。

3 主要事業一覧

令和8年度 主要事業名	
1	地域クラブ活動の推進(地域クラブ活動推進事業、中学校施設整備事業)
2	
3	
4	
5	
令和7年度 主要事業名	
1	地域クラブ活動の推進
2	トレーニング指導業務委託の見直し
3	(仮称)「生涯スポーツ賞」表彰の実施(市民スポーツ振興事業)
4	
5	
令和6年度 主要事業名	
1	地域クラブ活動の推進(課外クラブ関係事業)
2	大庄西中学校跡地の整備(健康ふれあい体育館整備事業)
3	
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・地域クラブ活動の推進については、子どもたちやその保護者等が安心して参加できるよう丁寧な説明を継続するとともに、会費等の受益者負担と困窮世帯への支援の在り方をはじめとする各種課題への対応や活動環境の整備を一体的に進めていく。 ・障害の有無にかかわらず誰もがスポーツに親しめる機会の充実を図る観点から、あまよう特別支援学校プールについて、障害福祉サービスやパラスポーツの活動場所としての活用可能性を関係部局間で連携して検討を進める。